

## (仮称)幼児教育・保育推進ビジョンパブリックコメント(平成29年2月28日～3月22日実施)意見・提案一覧(集計中)

No.	分類	中分類	意見の概要
1	ビジョンについて	育む力	試行錯誤という言葉づかいは不適當だ。趣旨が、試行・忍耐・経験・実行力ということであれば、「錯誤」は不要なのではないか。
2	ビジョンについて	基本的な視点1	親に向けて外遊びの利点を知る機会をつくってもらいたい。受験の低年齢化や早期教育で公園に行けなかったり、外遊びに不向きな格好をさせられていたりするケースがある。保育所の拡充だけでなく、地域の外遊びのコミュニティをつくらせたり、外遊びの利点を周知するようにしてもらいたい。外遊びに抵抗のある大人でも積極的になれるようなPRをするなど工夫し、親子のストレスや悩みが軽くなるようにしてもらいたい。
3	ビジョンについて	基本的な視点1	基本的な視点1にある、ことばの力・体力向上はすばらしい方針だと思う。
4	ビジョンについて	基本的な視点1	歩道区域を増やすことで安心して下校、外遊び、地域の連携を密にできるようにして欲しい。
5	ビジョンについて	基本的な視点1	道路工事などに伴い、自然の動植物が減っている。昆虫園を増やしたり、木の実のなる植物を植えたり、木を植えたり、自然にやさしくして欲しい。
6	ビジョンについて	基本的な視点2	基本的な視点2のなかで、自宅でのどのようなケアが必要かを保護者にアドバイスしてもらえると助かる。
7	ビジョンについて	基本的な視点2	基本的な視点2にある、配慮が必要な乳幼児に対する対応の充実については、一般的な幼稚園・保育園では対応が難しいこともある。連携してアドバイスをしてほしい。
8	ビジョンについて	基本的な視点5	基本的な視点5「家庭・地域の連携」に、住民がその地域の乳幼児を社会で育成するべき人的資産として大切に思う気持ちを醸成することを加えてほしい。
9	ビジョンについて	区民との連携	世田谷区には学者や芸術家、教育者が多く住んでいるので、そのような方を掘り起こし、つながり、アドバイスなどをもらえるとよい。世田谷区は人材豊かな区なので活かしてもらいたい。
10	ビジョンについて	区民との連携	「ビジョンの中間取りまとめ」は、これまでの教育方針と大きな違いが見られず、具体的なことは示されていない。子どもの言葉の乱れや、いじめの問題、心のケアなどについて区民の力を借りるなど、具体的な案を提示し、呼びかけてはどうか。協力できることは協力したい。
11	ビジョンについて	地域での子育て	世田谷区内には、35年前から子育て世代が仲間をつくって自主保育や育児サークルをつくり、区からも活動助成金などの様々な支援をいただいている。幼児期は家庭が中心となり、育児力を高める時期である。また、幼児期の子育ては多様であることが大事であるので、多様な自主保育や育児サークルが育つようなビジョンをつくっていただきたい。
12	ビジョンについて	推進体制	ビジョンを推進するための人材を確保する必要がある。このままでは現職の人たちが疲弊してしまう。推進するための具体的な仕組みを現実的に検討してもらいたい。
13	幼児教育センター	設置について	総合教育センターと乳幼児教育支援センターの2つの施設をつくるのではなく、1つの施設に両方の機能を持たせることができると思う。
14	ビジョンについて	貧困への対応	ビジョンをつくり、推進されることはよいことだが、貧困家庭が置き去りにされていないか懸念される。
15	ビジョンについて	待機児童について	ビジョンで待機児童解消が目的であると示すべき。
16	ビジョンについて	その他	クレイトン・クリスランセン氏の著書『教育×破壊的イノベーション』では、学校が生徒に自発的動機付けを与えるかたちで学ぶことができるのか、日本の教育をどのように変えることができるのかということが理論的に書かれており、示唆をもたらしてくれる。この著書を参考にしてビジョンを再考してみてもどうか。
17	保育・教育について	地域での子育て	幼少期の教育は一生を左右するほど大切なことだと思うが、共働き世帯では親だけでは難しい面もある。地域の中老年・高齢者が子どもたちに暮らしの技術や風習などを教える機会があるとよいと思う。
18	保育・教育について	地域での子育て	子育てをした経験から感じることは、子どもを社会の一員として受け入れる心が、社会に育っていないということだ。子育てを社会の問題として訴え、子育て世代が社会とともに頑張れるようにしてもらいたい。子どもは親だけでなく社会といっしょに育てるという意識を、社会が存続するために、社会・親ともに持てるように広報活動やシステム設計をしてもらいたい。

## (仮称)幼児教育・保育推進ビジョンパブリックコメント(平成29年2月28日～3月22日実施)意見・提案一覧(集計中)

No.	分類	中分類	意見の概要
19	保育・教育について	地域での子育て	地域ぐるみで子どもが成長していける環境を整えることも大切だ。
20	保育・教育について	愛着の形成	区の意見には賛成だ。その上で、乳幼児と母親とのスキンシップ・育みが最も大切なものなので、その点については、行政も母親も認識してもらいたい。
21	保育・教育について	親のサポート	保育園に入れた親もそうでない親も、互いにゆるやかにつながれる仕組みがあるとよい。
22	保育・教育について	保育環境の整備	子どもがのびのびできるかどうかは、子どもをみる大人の対応によるものが大きい。子どもをどうするか、という視点ではなく、見ている側、つまり受け皿となる保育園の質、保育士の質、そして保護者が二人いるかどうか、みてる親族が多いかどうかという点が重要だと考える。教育は、それが充足してからだ。
23	保育・教育について	その他	将来の東京を担う子どもを育てるためには幼少期からの教育が必要なので、この点に配慮して計画策定を進めてほしい。
24	保育・教育について	その他	女性が外で働くことには反対しないが、幼児教育について本気で考えるのであれば、子どものそばに母親がいることが一番だ。母親に代わる存在はない。
25	保育施設	保育施設の確保	保育施設が十分でないので、学校の空き施設を活用してもらいたい。少子化の影響で学校施設には余裕があると思う。保育施設を新設するよりもお金がかからないので、節約される分を保育士の給与に充ててはどうか。
26	保育施設	保育施設の確保	世田谷区は待機児童が多いので、保育園建設を進めてもらいたい。
27	保育施設	保育施設の確保	現在は保育所不足が課題となっているが、数年後には学童が不足するのではないか。今の段階から検討してもらいたい。
28	保育施設	保育施設の確保	孫が世田谷区内の保育園には入所できなかったため、子ども世帯は他区に住み、他区の保育園に通っている。子育てをサポートするために自分が他区まで通うことがあるのは、大変な負担である。世田谷区も保育行政をがんばってもらいたい。
29	保育施設	保育施設の確保	住んでいる地区によっては保育園に通わせにくいこともある。また、入園できたとしても、その園が3歳までしか預からないところであれば、幼稚園が別の保育園に入りなおさないといけない。共働き世帯だと延長保育や夏休みの対応をしてくれる幼稚園でないと預けられない。このような現実を踏まえ、どの子どもも必ずよい環境で保育・教育が受けられると約束してもらいたい。
30	保育施設	保育施設の増設	待機児童を解消し、全員が保育園に入れるようになるためには、人材確保はもちろん、保育園を建設することについて住民に理解を求めることが重要だ。
31	保育施設	保育施設の確保	世田谷区は保育施設が少なく、地域に偏りがある。現在ある園や職員に対して配慮するとともに、保育施設の地域的な偏りを解消する必要があると思う。保育施設が不足するなかで、良質な園が存続できるような取組を世田谷区には期待したい。
32	保育施設	保育施設の確保	幼稚園、保育所、認定こども園を増やしてほしい。
33	保育施設	保育施設の確保	保育士になりたい人に働く場所を与えるために、その環境を整えるのは行政にしかできない。近隣住民の理解を得るために、老人ホームに保育施設を併設してはどうかと思う。老人にとっては寂しさを和らげることができるだろうし、子どもも優しさや思いやりなどの態度を身につけることができるのではないかなと思う。
34	保育施設	一時保育	保育園に入れにくい子どものいる家庭では、ほっとステイのニーズが多くなっており、予約が取りにくい状況にある。一時保育を行う保育園を増やすため、行政から指導し、改善してもらいたい。
35	保育施設	一時保育	ほっとステイの予約方法が不便である。電話でしか予約ができず、しかも先着順となっており、予約のために子育てから手を離さないといけない。インターネットの活用も含めて、予約方法を考えてもらいたい。
36	保育人材	人材確保	世田谷区の保育園に保育士として求職していたが、柔軟な働き方ができなかったのであきらめた。短時間から働くことができるなど、柔軟な働き方ができれば保育士の求人も伸びるのではないかな。

## (仮称)幼児教育・保育推進ビジョンパブリックコメント(平成29年2月28日～3月22日実施)意見・提案一覧 (集計中)

No.	分類	中分類	意見の概要
37	保育人材	人材確保	待機児童の問題を解決するためには保育士の数を増やすことが挙げられる。免許・資格を持っている人で離職している元・保育士に対して復職のサポートをする機能があるとよい。
38	保育人材	人材確保	保育所を増設しても人材が足りない状況にあると聞く。若い保育士の負担を軽減するため、子育て経験のある年配の女性を「保育助手」としてパート採用してはどうか。資格がなくても、子育ての経験は活かせるはずだ。保育士と保育助手でシフトを組む体制を制度として取り入れれば待機児童ゼロも目指せるのではないか。
39	その他	環境整備	保育園から自宅まで安全に帰宅できるような道路整備を行ってほしい。安全に園から帰ることができるだけでも、明るい世間を見せてあげられる。
40	その他	その他	ビジョンに書かれていることはよいが、そのために行政組織を無暗に拡大し、無駄を増やすことだ。必要性のない組織・部署は思い切って縮小し、組織の最適化を図ってほしい。
41	その他	その他	保育園の入園にあたっては、長期間世田谷区に住み、長く納税していることが有利になる点数制を検討いただきたい。